

---

# リハビリテーション天草病院だより

---

2017年10月

No. 84



発行 埼玉県越谷市平方343-1 / (医) 敬愛会広報委員会

---

# 日本の「健康と介護の状況」について

医療法人敬愛会理事長 天草 大陸

厚生労働省は、3年毎に実施している保健、医療、福祉、年金、所得などの「国民生活の基礎的事項に関する調査」を公表しました。その

一部を抜粋し(医療タイムス7月10日号掲載分)ご紹介すると共に、糖尿病の怖さについて一言述べさせていただきます。

## 健康の状況

### 1 自覚症状の状況

病气やけがなどで自覚症状のある人〔有訴者〕は人口千人当たり305.9(この割合を「有訴者率」という)となっている。

有訴者率(人口千人対)を性別にみると、男271.9、女337.3で女が高くなっている。年齢階級別にみると、「10～19歳」の166.5が最も

低く、年齢階級が高くなるにしたがって上昇し、「80歳以上」では520.2となっている。

症状別にみると、男では「腰痛」での有訴者率が最も高く、次いで「肩こり」「せきやたんが出る」、女では「肩こり」が最も高く、次いで「腰痛」「手足の関節が痛む」となっている。

### 2 通院の状況

傷病で通院している人〔通院者〕は人口千人当たり390.2(この割合を「通院者率」という)となっている。

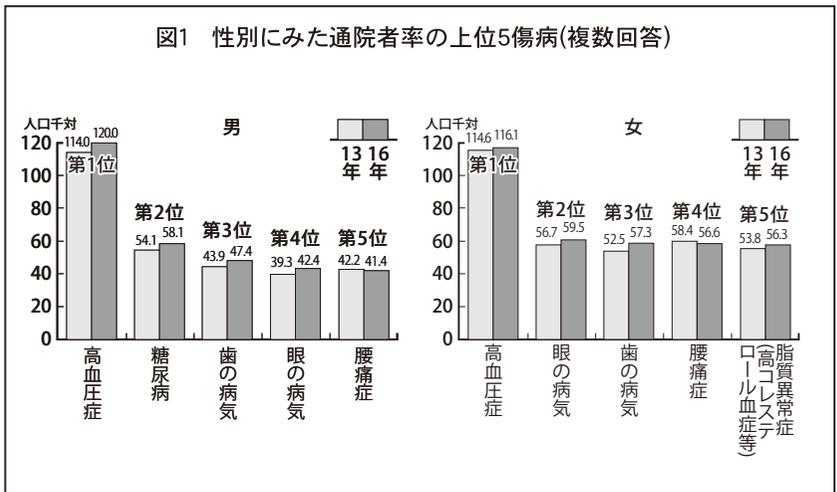
通院者率(人口千人対)を性別にみると、男372.5、女406.6で女が高くなっている。年齢階級別にみると、「10～19歳」の141.1が最も低く、

年齢階級が高くなるにしたがって上昇し、「80歳以上」で730.3となっている。

傷病別にみると、男では「高血圧症」での通

院者率が最も高く、次いで「糖尿病」「歯の病气」、女では「高血圧症」が最も高く、次いで「眼の病气」「歯の病气」となっている(図1)。

図1 性別にみた通院者率の上位5傷病(複数回答)



## 介護の状況

### 1 要介護者等のいる世帯の状況

介護保険法の要支援または要介護と認定

された人のうち、在宅の人(以下「要介護者など」という)のいる世帯の世帯構造をみると、

「核家族世帯」が37.9%で最も多く、次いで「単独世帯」が28.9%、「その他の世帯」が18.3%となっている。年次推移をみると、「単独世帯」と「核家族世帯」の割合は上昇傾向であり、「三世帯世帯」の割合が低下している。

要介護度の状況を世帯構造別にみると、「単独世帯」では要介護度の低い人のいる世帯の割合が高く、「核家族世帯」「三世帯世帯」では要介護度の高い人のいる世帯の割合が高くなっている。

## 2 要介護者などの状況

要介護者などの年齢を年次推移でみると、年齢が高い階級が占める割合が上昇している。

2016年の要介護者等の年齢を性別にみると、男は「80～84歳」の26.1%、女は「85～89歳」の26.2%が最も多くなっている。

介護が必要となった主な原因を要介護度別にみると、要支援者では「関節疾患」が17.2%で最も多く、次いで「高齢による衰弱」が16.2%となっている。要

介護者では「認知症」が24.8%で最も多く、次いで「脳血管疾患(脳卒中)」が18.4%となっている(図2)。

図2 要介護度別にみた介護が必要となった主な原因(上位3位)  
(単位:%) 2016年

要介護度	第1位	第2位	第3位
総数	認知症 18.0	脳血管疾患(脳卒中) 16.6	高齢による衰弱 13.3
要支援者	関節疾患 17.2	高齢による衰弱 16.2	骨折・転倒 15.2
要支援1	関節疾患 20.0	高齢による衰弱 18.4	脳血管疾患(脳卒中) 11.5
要支援2	骨折・転倒 18.4	関節疾患 14.7	脳血管疾患(脳卒中) 14.6
要介護者	認知症 24.8	脳血管疾患(脳卒中) 18.4	高齢による衰弱 12.1
要介護1	認知症 24.8	高齢による衰弱 13.6	脳血管疾患(脳卒中) 11.9
要介護2	認知症 22.8	脳血管疾患(脳卒中) 17.9	高齢による衰弱 13.3
要介護3	認知症 30.3	脳血管疾患(脳卒中) 19.8	高齢による衰弱 12.8
要介護4	認知症 25.4	脳血管疾患(脳卒中) 23.1	骨折・転倒 12.0
要介護5	脳血管疾患(脳卒中) 30.8	認知症 20.4	骨折・転倒 10.2

## 3 主な介護者の状況

主な介護者をみると、要介護者などと「同居」が58.7%で最も多く、次いで「事業者」が13.0%となっている。

「同居」の主な介護者の要介護者などとの続柄をみると、「配偶者」が25.2%で最も多く、次いで「子」が21.8%、「子の配偶者」が9.7%となっている。また、「同居」の主な介護者を性別にみると、男34.0%、女66.0%で女が多く、これを年齢階級別にみると、男女とも「60～69歳」が28.5%、33.1%と最も多くなっ

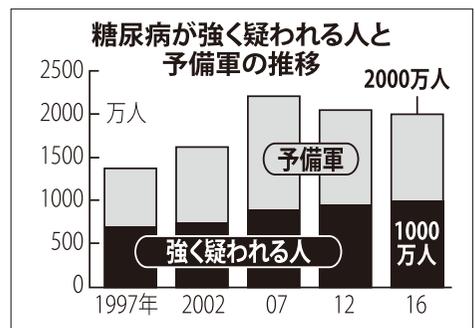
ている。

同居の主な介護者と要介護者などの組合せを年齢階級別にみると、「70～79歳」の要介護者などでは、「70～79歳」の者が介護している割合が48.4%、「80～89歳」の要介護者などでは、「50～59歳」の者が介護している割合が32.9%で最も多くなっている。年次推移をみると、60歳以上同士、65歳以上同士、75歳以上同士の組合せにおいて、いずれも上昇傾向となっている。

### 私からの一言

上記の[状況]から「高血圧」「糖尿病」などの「生活習慣病」対策が大切であることが分かります。脳卒中の基礎疾患として重要視されるものばかりです。「生活習慣病」の悪化から身を守ることが、脳卒中の予防になります。特に、糖尿病については「怖さ」を自

覚し  
健診  
を忘  
れず  
に!



## 「笑顔を忘れず、上を向いて！」

春日部市 矢野 聖也

「温かくて良い笑顔だな。」

天草病院に転院してきて、看護師さんや療法士さん等から感じた印象です。救急病院の看護師さんの中には、次々と運び込まれる患者に対応するため、一人一人と向き合う時間がとれないと嘆いている方もいました。天草病院のスタッフは、笑顔で患者に接しながらアットホームな雰囲気をかもしだし、一人一人に寄り添って下さいました。おかげで私たちは温かい雰囲気の中で安心して治療・リハビリに励むことができました。

病院を訪れる患者は、身体だけでなく心にも大きな傷を負っています。私も一瞬の事故で体の自由を失い、また継続して襲ってくる痛みに悩まされながら日々を過ごしています。

「あの一瞬がなければ」との後悔と共に、未来に対する不安も抱えています。だからこそ、スタッフの皆さんの温かい笑顔は前を向き、できることから始めようという勇気や活力となりました。特にリハビリ担当のOTや自主トレとして取り組んだ25kmに及ぶジョギングに笑顔でつきあって下さったPT、また夕食後の入院仲間との談笑時に毎回コーヒーを入れて下さった看護師の皆さんには、心から感謝しています。ありがとうございました。

退院後、すぐに職場復帰することもでき、現在は仲間と共に楽しく職務に取り組んでいます。当たり前のことができるということは、本当に素晴らしいことであり、ありがたいことだと実感する毎日です。不安や不自由はありますが皆さんから頂いた笑顔を忘れず、私

自身も笑顔で人を励まし勇気づけられる人となれるよう、上を向いて歩んでいきたいと思っています。（投稿日 平成29年5月29日）

## 「グラビティーゼロの世界からの生還」

杉戸町 水谷 淳

私は平成28年8月23日、右脳被殻出血で済生会栗橋病院を経てここ天草病院に9月16日に入院しました。左の手足は動きません。リハビリ中です。話しは変わりますが、一昨年「グラビティーゼロ」と云う映画がアカデミー賞作品賞にノミネートされ話題になりました。地球に帰還中にトラブルに巻き込まれる話です。ところで、宇宙飛行士も帰還後直ぐには歩けないそうです。地上のスタッフに抱えられている映像を見かけます。また、立花隆氏によると宇宙飛行士の多くは宇宙を体験した事により人生観が変わり帰還後、牧師や宗教家に転向していると云う。今の私も宇宙飛行士みたいなものかもしれない。左の手足が動かせず、仕事復帰が叶うかどうかとも判らない今の状態を思い悩んでいる。8月23日の時点で亡くなっていたかも知れない。人生観も変わりました。曾野綾子氏はしばしば作品の中で、“神に生かされている”と云う言葉を述べられます。当時は「神に生かされる」とはどう云う意味なのか分からなかった。そもそも、神の存在自体を信じてはいなかった。しかし、今ではその意味する所が良く理解できる。今の私は「グラビティーゼロの世界」からの帰還を目指している者と云うところでしょうか。先日、家内との共通の友人がお見舞に来て下さり、次の言葉を言って励ましてくれました。“練習は決して嘘をつかない”グラビティーゼロの世界からの生還を目指している者にはふさわしい励ましの言葉です。

無事生還できるその日まで。

(投稿日 平成29年 1月31日)

## 「母と天草病院」

幸手市 木村 美枝子

自宅にて介護していた高齢で認知症もある母が1月末に自宅で転倒し、左大腿骨頸部骨折になりました。毎日「ケガをしたら病院から帰れなくなるから気を付けてね!」と注意していたが夜中に私を気遣い、一人でトイレへ行こうとして転倒しました。私も毎日の介護で、フツと深い眠りについてしまったようで目覚めなかったことに深い後悔をしました。

無事に手術は出来たものの、もう自宅での生活は無理かとがっかりしました。私たち家族は早くに父を亡くし、母が私たち姉弟3人を愛情込めて育ててくれました。その分、皆母への愛情も強く出来る限り自宅で介護ができるよう望んでいました。実は母が天草病院にお世話になるのは今回で3回目。1度目は9年前のクモ膜下出血後のリハビリでした。この時は、まだまだリハビリどころではないと思えるような状態で天草病院へ転院し、どんなリハビリが出来るのかと不安でした。しかし、天草病院でお世話になり日々のリハビリを見ていると色々な方法や本当に細やかな対応。問題があった時はそれに対する方法をしっかり考えて下さり本当に驚きました。無論、看護師さんや介護士さんの毎日明るく細やかな患者さんへの接し方にも頭が下がりました。急性期病院を退院する時には「自宅へ戻れても寝たきり状態に近いかもしれません」と言われていたのに、天草病院を退院する時には、杖を使い歩くこともでき、食事も自分で箸を使い食べ、会話もだいぶ出来るまで回復しました。そう言うこともあり私たち家族

にとって天草病院に対する信頼は厚く、4年前に右大腿骨頸部骨折をした時も手術後は絶対に天草病院でお願いしたいと相談員さんに懇願しました。2度目は初めての骨折で認知症も発症していたので、どこまで回復できるか心配していましたが、またもや骨折前近くまで回復しました。そして3度目となる今回の骨折。認知症も進んでおり、天草病院で受けて頂けるかが一番心配でしたが、無事お世話になれることとなり、家族は心から喜びました。しかし、今回の入院は今迄と違い、リハビリだけでなく、認知症の方で皆さんに迷惑を掛けしてしまわないかと、家族としては日々胃の痛くなる思いでした。母は感情のコントロールが上手くできず、嬉しくても哀しくても大きな声が出てしまい怒りっぽくもありました。スタッフの方々は、それらの特徴をしっかりと受けとめ、どのリハビリの先生方も母に合った方法を考えてくれました。歌が好きな母にカラオケのリハビリを入れてくれたり、先生の説明を聞き納得すれば母はしっかり頑張ることを先生は理解し、指導してくれました。家族が何より心配していた皆さんに迷惑を掛けるという気持ちにスタッフの方々が「大丈夫ですよ」と言って下さり家族の気持ちも楽になりました。年老いた家族をお願いする者としては、本当に申し訳ないという思いでいます。

現在、無事退院し、念願だった自宅での生活を送っています。多くの方からよく自宅へ戻って来られたとお褒めの言葉を頂き、皆で喜んでいます。自宅へ帰れた母は喜びから骨折前より元気になり、何事にも積極的で明るくお喋りで「お母さんは一生懸命生きてるの」と言っています。認知症も少々改善されたかのようなようです。天草病院にお世話になれ心から感謝いたします。本当にありがとうございました。(投稿日 平成29年 6月 7日)

---

---

# 訪問リハビリの意義と利用方法について

---

---

リハビリ部 副部長（地域リハ担当）阿部 高家

## 1. 訪問リハビリの意義

病気や怪我の後遺症などによって、ご自宅での生活に何らかの不安を感じることがある場合に、訪問リハビリはこれらの解決に向けた有効なサービスと言えます。住み慣れた家とは言え、病院に入院しているときや、施設に入所したときと異なり、設備は十分ではないのが一般的です。また、生活環境は一人ひとり異なるものであるため、生じる不安も人それぞれです。

そのため、リハビリテーション専門職（理学療法士・作業療法士・言語聴覚療法士）がご自宅を訪問し、具体的に、不安な点や困難な点を伺い、それらの問題を克服するための方法について、ご利用者様、ご家族様と一緒に考えます。

当然ながら、訪問リハビリでは、ご自宅での個別リハビリ（マンツーマンでのリハビリ）を実施致しますが、実施にあたっては、主治医の治療方針やケアマネジャーのケアプランの方向性に沿うべく、常に情報を取り合いながら多職種連携を図ってまいります。

具体的なリハビリの内容は、次の通りです。

- ・柔軟性や筋力、バランスなど基本的な身体機能に対するアプローチ
- ・移動、食事、排せつ、入浴などの日常生活動作の練習や介助指導
- ・住環境に関する提案や整備
- ・家事動作や趣味活動の練習
- ・心理的サポート
- ・ご家族の負担軽減に対する相談

- ・生活目標を立てるお手伝い
- ・他のリハビリサービスへの移行の相談

## 2. 対象となる方（①～③を満たす方）

- ①介護保険の要介護認定を受けられた方
- ②かかりつけ医より、訪問リハビリの利用が適切であると判断された方
- ③3ヶ月に一度、当院の外来受診が可能な方

## 3. ご利用方法

- ①担当のケアマネジャーにご相談ください。  
ケアマネジャーを經由して当院にお申込みをいただき、訪問日時を調整致します。
- ②担当ケアマネジャー、訪問リハビリスタッフ、ご利用者様とご家族が参加する「サービス担当者会議」を開催した後、「契約」となります。
- ③訪問リハビリのサービスが開始となります。  
週に1回または2回の頻度で、1回あたり60分間の個別リハビリを、ご自宅で行います。
- ④訪問リハビリを継続して受けていくには、1で触れた多職種で連携することが必要となりますので、3ヶ月に一度、当院の診察を受けていただきます。かかりつけ医が他にある場合は、そちらの診察を事前に受けていただき、診療情報提供書を当院外来までお持ちください。

## 4. さいごに

訪問リハビリのスタッフは、当院で長く経験を積んできた職員となっておりますので、自信を持ってサービス提供させていただきます。どんなことでもご相談ください。

# 当老健における重要数値のご紹介と上半期実績

介護老人保健施設シルバーケア敬愛 事務長 清家 修

介護老人保健施設は介護保険法における職員配置の規定人数や職種、必要な部屋、平米数などをクリアして運営可能となります。(人員基準、設備基準と言います)

そして、運営するには運営基準があり、その上に各サービス(「介護報酬」による加算)に設けられた「算定要件」と言うルールをクリアする必要があります。

ここでは、当老健の人員配置数と上半期実績をご紹介します。

## ☆人員基準と当老健配置数の比較

### <老健>104床

資格	当老健に対する人員基準 (配置義務人数)	当老健人員配置数
看護職	10人	正看12人
介護職	25人	35人
リハビリ職員	1.04人 (100人に対し1人)	16.5人 (通所兼務)
支援相談員	1.04人	3人

### <通所リハビリ>利用者定員140人

介護職	14人	33人
-----	-----	-----

## ☆当老健は在宅強化型老健です

当老健は「在宅強化型老健」として運営しています。「在宅強化型老健」とは下記表に示した要件を満たす在宅復帰機能が高い老健です。上半期の実績と合わせてご紹介致します。

### <在宅強化型の要件と当老健上半期実績>

在宅強化型の要件		上半期実績 (4~9月、7~9月)
在宅復帰率	50%以上(前6ヶ月)	64.9%
ベッド回転率	10%以上(前3ヶ月)	14.9%
要介護4・5	35%以上(前3ヶ月)	67.0%

### <在宅復帰 上半期(4~9月)実績>

入所者1日平均	102.06人
退所者総数(死亡者、ショート除く)	77人
在宅退所者数(在宅施設含む)	50人

※在宅復帰率(在宅退所者数÷退所者総数×100)

## ☆通所リハビリにおける介護度3~5の受け入れ

通所リハビリでは介護認定中重度者(要介護3~5)の受け入れを積極的に行う為の体制を構築し、在宅支援に向けて「中重度ケア体制加算」を実施しています。(リハビリ職員16.5名 入所兼務)

### <要介護3~5の受け入れ上半期実績>

中重度ケア体制加算要件	上半期実績 (7~9月)
介護度3~5 30%以上(前3ヶ月) 看護師1人の配置	35.74% 1人

### <通所者1日平均 上半期(4~9月)実績>

通所者1日平均(予防含む)	122.77人
---------------	---------

## ☆地域に根ざし選ばれる老健を目指して

埼玉県東部地区において、埼玉県介護老人保健施設協会に登録されている在宅強化型老健は、老健16施設中当施設を含めて3施設となっており、条件が厳しく取得が難しいと言われております。当老健では人員基準より多く職員を配置しておりますので、表の数値(実績)から安定した取り組みが実施されていることをご理解頂ければと思います。

これからも安心、安全を心掛け、質の良いサービスを提供して参りますので宜しくお願い致します。

### <問い合わせ先>

介護老人保健施設シルバーケア敬愛  
048-978-8211  
入所相談員 春日、井上、石橋  
通所相談員 和田

## 編 集 手 帳

✦10月とは思えない寒い日が続く、また、寒暖の差も激しく、体調を崩されている方もおられるのではないかと心配です。くれぐれも健康維持に心掛けて頂きたいと思います。

✦日本の未来がどうなるのかを占う重要な衆院選挙の結果が出ました。結論から申しますと、日本の未来は「自立と誇り」が約束されたと言っても過言ではない結果でした。自公政権が維持され現実路線を更に充実発展させ国民の命と財産を守り生活を豊かにする諸政策が遂行されていくことでしょう。夢は夢でも財源等の裏付けがない現実離れたものは妄想と言うしかないからです。また、妄想は日本を崩壊させる危険性をはらんでいます。

✦日米安保廃止、自衛隊廃止、結果的には日本経済を牽引する大企業の撲滅等々を政策に掲げ、一党独裁国家樹立を目指す共産党の全面的なバックアップを受けた左翼政党と言わざるを得ない立憲民主党が議席数を大幅に増

やしたものの国を動かすだけの力を持ち得なかったことは幸いでした。日本の左翼政党は中国や北朝鮮などの共産主義国に甘く、何かと言えば「対話、対話」と唱えます。「対話」で全てのことが片付くなら、こんな楽で幸せはありません。しかし、現実には世界各地で内戦やテロが勃発しています。左翼の彼らは本当に「対話」で世界平和が訪れると考えているのでしょうか。私にはそうは思えません。彼らの本心は「社会主義・共産主義に近い形の国＝日本」の実現を夢見ているのではないかと勘ぐりたくもなります。

✦戦後、日本は平和を満喫して来ました。憲法9条が存在したからでしょうか。違います。日米安保条約や自衛隊のお陰です。そこを履き違えたら議論になりません。因に、私は「保守リベラル」を自認しております。我が国で左翼勢力を「リベラル」と言うのは的外れです。確かに「リベラル」は、衣の下の鎧を隠すには便利な言葉です。

(理事長 天草大陸)

## 当法人施設が取得する第三者評価認証

患者さんが病院を評価するには、その病院自身の「自己紹介」も参考になりますが、第三者の評価も重要です。当院では「病院機能評価機構」と「ISO」の認証を取得しています。

なお、老人保健施設でも「ISO」の認定を受けています。



### 表紙のことば

この作品は、秋をテーマに患者様が作成し、ご家族に飾り付けをしていただいたものになります。病棟のデイルームにあり患者さんや面会に来られたご家族、病棟スタッフはいつも鑑賞し季節の移り変わりを楽しんでいます。ご面会に来られた際には是非ご覧下さい。  
(B病棟スタッフ一同)